

論点整理表

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標	イ 学士課程教育にあつては、美術・工芸・デザインの分野において確かな造形の基礎力を修めた職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、これに基づく特色ある教育を効果的に実施する。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由(案)
(イ) 人間形成のための教養教育を確保し、体系的な理論基礎教育を実践するため、一般教育科目と専門基礎科目の在り方を見直し、カリキュラムを充実する。【24年度改編】	(イ) 24年度のカリキュラム改編をめざし、語学教育の在り方の検討、幅広い造形教育の推進、理論系科目やマルチメディア教育の充実、教養科目と専門科目の配分などについて検討し、22年度中に方針をまとめる。	教務委員会内にカリキュラム改編のためのワーキンググループを設置して、語学教育の在り方を検討し、特に英語表現能力の向上のため、23年度から本格開設に向けてイングリッシュ・ヘルプセンターの試行を行った。幅広い造形教育の推進、理論系科目やマルチメディア教育の充実、教養科目と専門科目の配分などについて検討した結果、卒業に必要な総単位数の見直しやそれぞれ科目群の意義と単位数、バランスを検討し、改編の方針をまとめた。さらに平成24年度に向けた具体的なカリキュラム改編案を策定した。		

12

〔意見〕

検討・改編は今後も不断に行われるべきものであり本年度に特に上回って実施したとの印象は薄い。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(I) 産学・地域連携研究を授業課題に活用するなど、社会と接点を持つ教育プログラムを検討し、実践的な教育を推進する。	(カ) 社会の第一線で活躍するデザイナーの講師招聘を充実する。	各業界を代表するデザイナーをデザイン科の各専攻毎に20名～30名程度を講師として招聘し、実践的な教育を推進した。		

16

〔意見〕

年度計画どおりと思われる。

論点整理表

中期目標	ウ 大学院教育にあつては、芸術の多様な領域で活躍できる高度専門職業人を育成するため、教育の実施に関する基本方針を定め、自由で多様な表現を認め育てる高度な教育を効果的に実施する。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由	
(イ) 産学連携研究や地域課題を研究テーマに活用し、社会と接点を持つ教育プログラムを検討し、大学院生自らがマネジメントを行う実践的で高度な教育を推進する。	(イ) デザイン分野におけるディレクター教育を推進するため、その効果が期待できる事業に参画し、実社会の課題を通じて大学院生自らがマネジメントを経験する教育を実施する。	本学のデザイン教育が目指すディレクターの資質・能力養成のために、学部及び大学院での実習のなかに企業人を前にした説得力のあるプレゼンテーション能力の強化を図った。また、消費者の嗜好調査や市場調査を取り入れて、商品開発や経営戦略に求められる総合的な判断力の教育に重きを置くこととした。			24
	(ウ) 社会の第一線で活躍する独立系デザイナー等を招聘し、ディレクター養成教育を進める。	デザイン専攻が中心となり、製品開発の現場で行われるデザインの「判断力」について、優れた企業人を通して学修した。			25
	(エ) 企業の協力を得て、インターンシップの導入を促進する。	学生の潜在能力を企業の現場で伸ばし、同時に評価してもらうためのインターンシップが、デザイン専攻で実施された。			26
	(オ) 金沢美術工芸大学アートギャラリーの企画運営に大学院生を参画させる。	企画展の展示補助・撤収作業や受付・監視業務など、アートギャラリーの企画運営に大学院生が参加した。			27

〔質問〕

こうした取組はこれまで行われていなかったか。

論点整理表

中期目標	工 教育の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を定め、これを厳正に適用することにあわせ、その検証に取り組むことにより、成績評価の透明性、客観性及び信頼性の向上を図る。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(ア) 卒業生、修了生の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を策定し、これらを公表するとともに、成績評価基準については、学生の学修目標設定などに資するため、シラバスへ記載し、学生に明示する。【22年度】	(ア) 学生の質を保証するため、履修状況と成績評価方法の再点検を行い、年間修得単位の上限の設定を検討するとともに、客観的な指標とその評価基準を確立し、成績評価基準と学位授与基準を策定し公表する。	教務委員会と大学院運営委員会に成績評価基準と学位授与基準策定のワーキンググループを年度当初に設置して、履修状況と成績評価方法の再点検を行った。また、年間修得単位の上限の設定の検討を行った。成績評価基準についてはシラバス上の評価方法の表記を改善しホームページ上でも公表した。学位授与基準については、特に博士後期課程において論文博士の学位授与基準を策定し公表した。大学院学則、大学院履修等に関する規程及び学位規程に明記しホームページ上で公表するとともに、さらに論文博士の論文認定については、新たに評価基準を策定した。		

31

〔実績修正〕

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(ア) 卒業生、修了生の質を保証するため、成績評価基準と学位授与基準を策定し、これらを公表するとともに、成績評価基準については、学生の学修目標設定などに資するため、シラバスへ記載し、学生に明示する。【22年度】	(ウ) 成績評価の客観性を高めるため、ピアレビューの実施を推進する。	専攻内での複数の教員による合評会のほか、異専攻間で教員が講評を行う機会を設けている。		

33

〔意見〕

年度計画どおりと思われる。

論点整理表

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(イ) 博士後期課程の学位審査の客観性と公開性を向上させるため、学位授与基準を厳格に適用する仕組みを構築するとともに、博士学位取得者の社会的信頼性の向上に努める。【22年度構築】	(I) 引き続き、成績評価に学外者を変え、公開審査を実施する。	博士の審査会には必ず外部の評価者を入れることとし、作品審査は金沢21世紀美術館での公開の審査を行い、また論文の審査に関わる口述試験においては学内、あるいは紹介による学外者に対して公開して審査を行い、作品、口述試験審査の透明性、客観性を保持することとした。		

34

〔意見〕

年度計画どおりと思われる。
特に新たな取り組みを開始したわけではなく、従前どおりのことを引き続き行っただけなら ではないか。

	(オ) 学外で制作・研究課題発表等を実施し、社会的信頼性の向上に努める。	金沢21世紀美術館において修了作品展を開催し、作品、論文の発表を行い、外部からの講評者を招き客観的な評価を得る施策をとっている。		
--	--------------------------------------	--	--	--

35

〔意見〕

年度計画どおりと思われる。
特に新たな取り組みを開始したわけではなく、従前どおりのことを引き続き行っただけなら ではないか。

〔助言〕

ここでは、「学位審査」にかかる実績をみているため、当然に、発表は年1回、論文の本数もその年の対象者の数、ということになるが、論文の本数や研究成果発表会の回数は多い方が良いでしょうし、指標としても分かりやすいため、修了作品展にかかるもの以外も指標化して実績を検証していかがいか。

論点整理表

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

中期目標	ア 学生に質の高い教育を行い、教育目標を確実に達成するため、教育の内容や特性に即した教員の適正配置を行う。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(イ) 大学院教育に携わる教員の資質を担保するため、大学院指導資格基準を精査し、資格審査を実施する。【22年度精査、23年度試行】	(イ) 大学院指導資格基準を策定する。	大学院運営委員会内に大学院指導資格審査基準策定のためのワーキンググループを年度当初に設置して検討したが、本年度は大学院学則及び大学院設置基準で定める基準を大学院指導資格基準とした。今後、新たに内規として策定するためには、大学院設置基準に基づき、分野における評価項目（博士学位の有無、展覧会・論文発表、学会活動、科研申請状況等）及びその評価方法の精査が必要である。		

38

〔意見〕

年度計画における大学院指導資格基準を策定するとあるのは業務実績の記述にある新たに内規として策定するとの意味でなければ意味がないと思われ、その意味で年度計画に達していない。
 「大学院指導資格基準」を策定したとは言い難い。

	(ウ) 策定した資格基準により、指導教員の審査を実施する。	本年度は、大学院学則及び大学院設置基準で定める基準により、大学院の指導教員の資格審査を、採用時、昇任時及び担当科目決定時に実施した。		
--	-------------------------------	--	--	--

39

〔意見〕

「大学院指導資格基準」を策定したとは言い難い。

論点整理表

中期 目標	イ 教育活動を活性化し、学生の自主性や創造性を引き出すため、学生に対する学習指導体制を強化するとともに、教育研究に必要な施設、設備等の充実・整備を行う。
----------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(ア) 学生の学習支援を充実するため、自主的な学習や研究活動の支援に携わる教員を配置する。【22年度検討、以降試行】	(ア) 授業科目の履修をはじめ、正課外の芸術活動等を支援する方法と体制を検討し、23年度から試行する。	<p>地域連携や産学連携などの学外での活動を通して学生の自主的な表現及び研究活動の機会を設け、平成24年度からのカリキュラム改編に併せて単位化に向けて対象となる事業内容を検討した。</p> <p>さらに22年度に前倒して金沢問屋センターとの地域連携により、無償で借り受けた「問屋まちスタジオ」の運営にあたって地域と教員で組織する運営協議会を設立して支援体制を構築し、学生の制作運営の実践の場として提供した。</p> <p>さらに金沢問屋センターとの地域連携により無償で借り受けた「問屋まちスタジオ」の運営にあたる地域と教員とで組織する運営協議会を当初の23年度から22年度に前倒して設立して学生の制作活動への支援体制を構築した。</p>		

〔実績修正〕

論点整理表

中期目標	ウ 教育の質を向上させるため、教職員の資質向上を図るとともに、教育の方法や内容等について不断の見直しを行う。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(ア) 授業内容や教育方法の改善及び教育を支える管理運営や事務部門の能力向上のための組織的な活動（FD・SD活動）に計画的かつ継続的に取り組み、全学的な教育力の向上を図る。	(イ) 教育を支える大学事務職員の養成のための研修等を実施する。	大学内で開催される作家講演会等（5回開催毎回事務局から3～5名参加）に職員を参加させ、美術に関する知識や教養を深めるとともに、国や大学関係機関が開催する各種事務連絡協議会やSD研修会（4研修会に4名派遣）へ職員を派遣したほか、国際交流担当の事務職員の現場体験として、ニューヨーク州立バッファロー美術大学において教員とともに短期研修を実施した。		

46

〔助言〕

回数や参加人数は大切な指標であるため、計画にも数値を入れた方がよい。

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(ウ) 学生アンケートや評価機関の評価結果を活用した授業内容の改善を進める。	(イ) 学生アンケートによる授業改善に対する意見を検討し、授業改善を図るとともに、学生にその内容を公開する。	各教員は、学生アンケートによる授業改善に対する意見を検討し、授業改善計画書を提出し授業改善を図った。また、その内容は学生がいつでも閲覧できるよう公開した。		

48

〔助言〕

匿名の評価は、評価する側が無責任になりがちのため好ましくない。学生と教員の信頼関係を構築し、評価する側の学生も記名で責任を持って評価するという体制を整備されたい。

論点整理表

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）
 (3) 学生への支援に関する目標

中期目標	ア 学生が自主的に学習に取り組むことができるようにするため、学習環境や学習相談体制を整備する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(ア) 個々の学生の自主的な学習を支援するため、オフィスアワーの周知をさらに進め、学習相談の利用を促進する。【22年度】	(ア) オフィスアワーの周知や学生相談室を通じ個別指導を充実する。	年度当初のガイダンスにおいて、 学生からの日常の学修や学生生活に関する相談に応じるために各教員があらかじめ設定した時間帯（オフィスアワー）の有効利活用 について説明するとともに、シラバスにも全教員のオフィスアワー時間を掲載して周知を図った。また、学生相談室に学修支援担当の教員を配置し、定期的に相談日（学事期間の毎週火曜日）を設け、個別指導を充実した。		

51

〔実績修正〕

論点整理表

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(リ) 学生の意欲的な学外学習活動等に対する柔軟な支援を検討し、充実する。	(I) 自主的な学外発表活動を支援・奨励する。	個展・グループ展の開催について、1件あたり上限5万円を上限に、年間60件を補助したほか、市内の銀行を展示空間とし、空き家を工房として活用するなど、学外の発表活動を支援した。		

54

〔質問〕

過去の実績があるか。学外に展示空間を設けるなどの取組が新しいものであるとするなら、その実現に関して大学当局がどのようなアクションをしたのか。

〔意見〕

これが新しい取組とその成果であるとするならば高い評価をすべき。

論点整理表

中期目標	イ 学生が充実した学生生活を送ることができるようにするため、生活面での支援体制を充実する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(I) 福利厚生面での充実を図るため、学生の意見を広く聴き、改善に努める。	(I) 学生自治会との意見交換等を実施し、学内環境の改善に努める。	<p>学生の要望に応じて、展覧会用貸出し備品を整備した他、エアコンをまずデザイン科の演習室から設置し始めた。</p> <p>また、学生支援委員会が学生自治会と意見交換を行い、学生の意見や要望を的確に反映させるために、自治会規約を見直して、自治会の統括機関として代議員会を、自治会役員組織として執行部を新たに設け、執行部と代議員会が学生総会の運営や予算の編成・監査の他、学生代表として大学当局及び他大学自治組織との交渉にあたる権限を付与した。</p> <p>また、学生支援委員会と学生自治会との間で意見交換を行った結果、より学生の意見や要望を取り入れるとともに、自治会活動の活性化に協力するため、学生との交渉では、自治会執行部に加えて、さらに自治会の統括機関である代議員を学生代表とすることとした。</p>		

〔実績修正〕

論点整理表

中期 目 標	ウ 学生が適切な進路選択を行うことができるようにするため、就職等の支援体制を充実する。
--------------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
学生の進路や就職活動等に対して専門的な助言指導を行うため、情報のデータベース化やキャリアアドバイザーの配置等を検討し、具現化を図る。	(イ) 卒業・修了後の研究者や作家としての自立をめざした指導等を実施し、その活躍を支援する。	著名なギャラリストや評論家を修了制作展会場に招き、作品の講評と併せて作家として自立するための画廊の紹介や海外への留学の斡旋などのアドバイスを受けることができるギャラリートークを開催して、今後の独立した作家としての活動の機会を設定した。		

61

〔助言〕

本計画における直接的な指標ではないが、学生が作家として自立した後の追跡も実施されたい。

論点整理表

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期目標	ア 芸術の分野において、世界に通じる研究拠点を形成するため、新たな芸術の創造に資する高度な調査研究や地域の特色ある課題に積極的に取り組む。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(イ) 世界に通じる研究拠点となるため、国際的な共同研究に取り組む。	(I) 工芸教育者や専門家の研究交流を通じ、伝統的な技術の記録継承と地場工芸産地の活路開拓をめざし、アジア工芸教育交換プログラムを実施する。	これまで運用してきた「伝統工芸聴講生制度」を廃止し、新たに金沢創造都市推進プログラムに位置づけられた「アジア工芸作家等研修支援業務」を、金沢市の委託事業として立ち上げ、ミャンマー等伝統的工芸技術が残された開発途上国との交流研究事業と韓国や台湾からの招聘事業を行いものづくりに関わる技術交流、将来に向けての有効な人的ネットワークの構築を図った。		

65

〔意見〕

年度計画どおりと思われる。

論点整理表

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(オ) 文部科学省科学研究費補助金において、段階的に申請件数の増加を図り、計画期間最終年度には10件の申請を目指し、これを通じて教員個人の研究活動を活性化させる。	(キ) 文部科学省科学研究費補助金の5件以上の申請をめざし、学内研究の活性化を図る。	文部科学省科学研究費補助金申請は4件行った。		

68

〔質問〕

過去の実績があるか。学内研究の活性化を図るための具体的な取組は。

〔意見〕

又は 学内研究の活性化への取組姿勢の変化による成果であるならば もしくは 評価でもよいのでは。4/5であれば、 にするほど少ないとまでは言えないのではないか。

論点整理表

中期 目標	イ 芸術の振興・普及を促進するため、調査研究の成果を体系的に蓄積し、有効活用を図るとともに、国内外に向けて積極的に発信する。
----------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(ア) 効果的な研究成果報告の在り方を検討し、制度化する。【22年度】	(ア) 教育・研究活動の年度報告の在り方を検討し、23年度から制度化する。	教育・研究の活動成果は、すべて文書で報告することとし、22年度の成果報告から実施した。さらに23年度からは、個別に審査し、報告書の内容の充実を図ることとした。		

69

〔実績修正〕

〔意見〕

年度計画どおりと思われる。

論点整理表

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）
 (2) 研究実施体制等に関する目標

中期目標	イ 研究の質を向上させるため、研究の方法や内容等について不断の見直しを行う。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
研究活動とその成果に対する点検・評価を行い、その結果を次の研究活動に反映することのできる仕組みを検討し、試行により効果を検証しながら、適正な制度の構築を進める。【前期：検討試行】	(イ) 点検・評価の結果をもとに、改善方法を検討する。	点検・評価の結果をもとに、改善方法を検討した結果、若手や意欲のある教員、先端性や公共性のある研究をテーマとする教員などを積極的に評価するとともに、大学の個性化につながる研究や外部資金の獲得につながる研究を奨励した。また、教育研究センターの教員による科研費の獲得方法の研究についても教授会で周知し、全体の研究組織としての活性化を図った。		

76

〔質問〕

過去の実績があるか。学内研究の活性化を図るための具体的な取組は。

〔意見〕

学内研究の活性化への取組姿勢の変化による成果であるならば 評価でもよいのでは。

論点整理表

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	市民の生活文化の向上や地域の課題解決に貢献するため、産業界、芸術界、大学、行政、市民等との連携を強化し、教育研究成果を積極的に社会に還元する。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
ア 「創造都市・金沢」の発展の一翼を担うとともに、都市計画、まちなみ保全、景観などに関する施策の協働に積極的に取り組む。	ア 金沢市との協働 (ア) ユネスコ創造都市に関連した芸術教育研究事業として、次の事業に取り組む。 ・「平成の百工比照」収集作成事業 ・海外の創造都市への学生の派遣事業を試行する。【金沢市事業】	・「平成の百工比照」収集作成事業は、初年度として、染織の分野で調査収集を開始した。 ・金沢市が募集したクリエイティブ・ワルツ事業に応募し本学から4名をベルリン市等へのユネスコ創造都市に派遣した。		

77

〔意見〕

年度計画どおりと思われる。

論点整理表

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
イ 企業等からの受託研究や共同研究などにおいて、教育と研究の観点から大学が取り組む意義のある研究を積極的に実施する。	イ 企業等からの受託研究や共同研究などにおいて、教育と研究の観点から大学が取り組む意義のある研究を積極的に実施する。	社会をフィールドとした教育環境の中でマネジメント感覚を育むために企業及び自治体からの商品開発依頼や地域活性化へのデザイン支援等を31件実施した。 さらに、市立病院と連携したホスピタリティ・アート・プロジェクトや市立工業高校と連携して学校環境をアートで飾る事業を実施した。		

83

〔意見〕

文言からは年度計画どおりと読めるが、当初の具体的計画よりは大きく推進したというのであればその推進に関する取組をアピールすべき。

論点整理表

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
<p>ア 「創造都市・金沢」の発展の一翼を担うとともに、都市計画、まちなみ保全、景観などに関する施策の協働に積極的に取り組む。</p>	<p>オ 多彩な芸術企画の開催 (ア) 大学に近接した石引商店街と共同したアートイベントを実施する。</p>	<p>石引商店街と金沢美術工芸大学の間で社会連携プロジェクトを企画し、石引に金沢美大多目的情報発信基地（仮称）「アートベース石引」を設置。そこを起点にアートとデザインのある町としてのブランドを構築し地域の商品開発や商店街の環境整備、イメージ戦略を開始するための企画、準備をした。アートイベントとしては、石引商店街にある銀行のウィンドウギャラリーで染色と陶磁の作品展示を行ったほか、石引商店街の商品や店舗デザインについての提案発表会を開催した。 石引商店街と共同で、石引地区を「アートとデザインのある町」として発信するため、アートイベントとして地区内の銀行で「染色と陶磁」の作品展示を行ったほか、さらに商品開発や店舗デザインの企画立案を行い提案発表会を開催した。</p>		
	<p>(イ) 美大ショップKACOAを街中で開催する。</p>	<p>一昨年までは店舗の開店期間が3週間と短期であった。それは家賃を含む経費、人件費、商品管理と品質維持などビジネスとしての基本的な問題があった。それらの問題を解消すべく、必然的意味合いのある店舗の確保（石引商店街）と改装、事業内容、商品選定（産学連携事業での開発商品を美大ブランドとして販売、他）、販売員の常駐、在庫等の営業活動、地域との共存共栄など企画しアートベース石引（仮称）を設置整備した。</p>		

89

90

〔実績修正〕

論点整理表

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）
 (2) 国際化に関する目標

中期目標	国際感覚豊かな教育研究活動を推進するため、学生や教員の国際交流の機会を拡大する。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
ア 教育研究における国際交流を推進するため、学生や教員の海外交流の機会を拡大するとともに、交流内容の充実を図る。	(カ) アジア工芸教育交換プログラムを実施する。	ミャンマーでは工芸科の教員4名、学生・卒業生11名が参加、国立漆芸技術大学で漆のワークショップ、サウンダー染織学校で染織の講義、ワークショップを実施。台湾では染織教員1名、染織大学院生2名が参加、新竹懸新埔で柿渋ワークショップ、と講義。国立台湾工芸研究所でのラックの採集と染色ワークショップ。韓国では本学教員3名がデザイン政策と高等教育の現況視察を実施した。 招聘事業では韓国金芝銀氏、カンボジア森本喜久男氏、台湾から国立台湾工芸研究所副所長以下4名を招聘し、ワークショップ、講演会、フォーラム、交流会を開催した。		

98

〔意見〕

年度計画どおりと思われる。

論点整理表

業務運営の改善及び効率化に関する目標

- 1 組織運営の改善に関する目標
- (3) 人事制度の改善に関する目標

中期目標	ア 大学運営や教育研究活動を効果的かつ効率的に推進するため、大学の特性や教育研究活動の実情に即した柔軟で弾力的な人事制度を構築する。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(イ) 効果的、効率的な教育研究活動を実現するため、多様な雇用形態や任用制度等について検討し、教育研究の質の向上に資すると認められるものについて、制度化を図る。【前期：検討、中期・後期：制度化】	(イ) 効果的、効率的な教育研究活動を実現するため、多様な雇用形態や任用制度等を検討する。	これまでのキャリアを活かした効率的な教育活動を実現するため、退職した教員を専任として再雇用した。 また、非常勤職員の効果的、効率的に活用するため、美術モデルの雇用条件を見直した。 効果的、効率的な教育研究活動の実現を図るため、教員と非常勤職員の雇用形態について検討した結果、退職した教員を専任として再雇用するとともに、美術モデルの雇用条件を見直した。		

106

〔実績修正〕

〔意見〕

「計画を上回って実施」とまでは言い難い。

論点整理表

業務運営の改善及び効率化に関する目標
2 事務等の効率化・合理化に関する目標

中期目標	新しい運営体制に即した事務処理を行うため、現行の事務処理を見直し、事務の効率化及び合理化を図る。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(2) 効率的な事務処理等を実現するため、大学運営に係る企画・立案能力や、学生・教務事務に関する専門知識を有した専門職員を任用・育成する。	(6) 適正、公正、安定を確保した実効性ある内部監査体制を確立するとともに、公開度の向上を図る。	事務局内の体制に、理事会と教育研究審議会が加わり、内部の監査体制に適正と公正の担保のためのメカニズムが導入されるとともに、外部の監事により、さらにその安定度を高めた。		

114

〔質問〕

メカニズムの具体的内容は。No. 148との関連は。

論点整理表

財務内容の改善に関する目標
3 資産の運用管理の改善に関する目標

中期目標	資産の適正な管理を行うため、常に資産の状況について把握・分析を行い、効果的な活用を図る。
------	--

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(1) 効果的な資産の運用を行うため、資金計画を策定し、効率的かつ確実な資金運用を行う。	(1) 効果的な資産の運用を行うため、資金計画を策定し、効率的かつ確実な資金運用を行う。	9月末現在の実績を元に下半期の資金計画を策定し、より高率が期待できる資金運用の是非について検討したものの、資金運用によって生み出される利益とそれに要する時間や手数を考えた結果、今年度は、利率より安全確実な運用を行うこととした。		

125

〔助言〕

効率と高率は違う。市民の財産なのだから資金運用は安全確実に厳守すべきである。そのためには「資金運用規程」を策定すべきである。

論点整理表

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標
1 評価の充実に関する目標

中期目標	自己点検・評価の結果を大学運営の改善に有効に反映させるため、点検・評価の内容、方法、体制等について不断の見直しを行う。
------	---

中期計画	年度計画	業務実績（計画の進捗状況）	自己評価	自己評価と異なる評価委員会の評価とその理由
(2) 自己点検・評価の結果を大学運営の改善に反映するための全学的な体制を整備する。【22年度】	(3) 自己点検・評価の結果を大学運営の改善に反映するための全学的な体制を整備する。	自己点検・評価の機能を大学運営に反映できるように、自己点検・実施運営委員会に教育研究審議会、教授会双方から委員を選出し、全学的な点検・評価体制を整備した。管理職と教授会メンバー双方からの委員で構成され、専攻や分野のバランスにも配慮した体制を整備した。 さらに、自己点検・評価実施運営委員会において大学基準協会が定める全点検・評価項目について、「改善計画書に関する達成状況について」を作成した。		

130

〔意見〕

年度計画どおりと思われる。